

# 看護経験を書き表す学び方の学習における

## 論理的な構造に注意を向ける学習環境の設計

### Learning Environment Design to Aware Logical Structure of Description in Learning from Experience for Hospital Nursing

鈴木 貴之<sup>1)</sup>, 松田 憲幸<sup>1)</sup>, 西山 大貴<sup>2)</sup>, 陳 巍<sup>2)</sup>, 田中 孝治<sup>2)</sup>, 池田 満<sup>2)</sup>

SUZUKI Takayuki<sup>1)</sup>, MATSUDA Noriyuki<sup>1)</sup>, NISHIYAMA Hirotaka<sup>2)</sup>,

CHEN Wei<sup>2)</sup>, TANAKA Koji<sup>2)</sup>, IKEDA Mitsuru<sup>2)</sup>

s171027@center.wakayama-u.ac.jp, matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp, nishiyama-hirotaka@jaist.ac.jp,

wei.chen@jaist.ac.jp, kktanaka@jaist.ac.jp, ikeda@jaist.ac.jp,

1) 和歌山大学, 2) 北陸先端科学技術大学院大学

1) Wakayama University, 2) Japan Advanced Institute of Science and Technology

キーワード：学び方の学習, 経験学習, ライティングスキル

#### 1. 研究の背景と目的

医療現場では、医療従事者の医学的な価値観や患者の価値観、またその家族の価値観などの様々な要素を考慮しながら、看護業務を行わなければならない場面が多く存在する。しかし、すべての場面で必ずしも、正しい答えが存在しているわけではなく、看護師は自ら行った看護業務の結果について悩みを深めてしまう問題がある。この問題に対して、自ら考えて行動する際に必要な“看護に対する思考力”の指導法が確立しておらず、十分に指導できていないことが原因であると、筆者が所属する研究室と連携している病院看護組織の看護部長は指摘している。

そこで、平成 22 年度より筆者らは、病院看護組織と連携し、“看護に対する思考力”を習得することを目標とした思考指導の研修を実施している。この研修では、思考の明示化を補助する思考表現支援ツールを用いて、学習者の経験を振り返り、文章として記述する。そして、指導者は、記述されたケースの添削・批評を行う。さらに、指導者が学習者に対して、添削・批評した文章の講評を行うことで思考の指導を実施している。

しかし、この研修において学習者が自分の思考を言葉に言い当てるのが難しく、特に研修用の記述の仕方を理解することが難しいという課題が浮かび上がった。その原因には、(A)常に記述の論理構造を考えることが難しいこと、および、(B)書きやすい表現で記述していることが論理構造を眺めにくくしていることが考えられる。そこで、学習者に思考の記述の仕方を理解させるために、記述した文章間の論理的な構造に注意を向けることの意義を理解し、次に自らの経験を記述した文章間の論理構造を描く訓練をする学習環境を設計する。特に、理想的な構造を知るために、(1)理想の構造をもつある思考記述を読む、(2)問題のある構造の思考記述を読み、(3)両者を比較しどちらが分かりやすいかを選ぶ、といった学習シナリオをベースに、学習ツールを開発する。

これにより指導者は、思考の記述に関して、優れた指導を行うことができ、学習者の文章の間の論理的な構造への理解がより深まることが期待できる。